

# 第44号

発行  
福岡県地域婦人会連絡協議会  
〒812-0046  
福岡市博多区吉塚本町13-50  
発行責任者 木下 幸子  
TEL 092-643-1440

# 県婦連心くおか

- \*家庭・地域の教育力を高め、青少年の健全育成に努めよう。
- \*審議会等政策決定の場へ女性の参加を促進しよう。
- \*循環型社会をめざし、地球環境を守ろう。

## 『安心・安全な地域社会の構築を目指して』



福岡県地域婦人会連絡協議会  
会長 木下 幸子

新年あけましておめでとーございます。皆様方のご健康とご多幸を心からお祈り申し上げます。

昨年は、第六十三回全国地域婦人団体研究大会を四十六年ぶりに開催し、県内会員皆さんを始め多くの関係者の皆様のご支援のおかげで盛会裡に終えることが出来ましたことを感謝申し上げます。

大会テーマに掲げました「歴史に学び、未来に夢を馳せ、やさしい心で創る安心・安全な地域社会」の構築は、これまでの婦人会活動を見直し、より前向きに地域社会への貢献をしていくことにより、婦人会の活動が地に足がついたものとなっていくのではないのでしょうか。

特別講演では、東日本大震災当時消防庁長官をされておりました久保信保講師から、震災当時の消防の果たした役割などをお聞きすることが出来ましたが、今後起こる様々な災害に備える必要性を痛切に感じました。震災から四年九ヶ月が経ちましたが、被災地の一日も早い復興を願って、これからの支援を続けて参りたいと思っております。

また、第二分科会におきましては、公益財団法人福岡県すこやか健康事業団の理事長・

会長瓦林達比古医学博士から「地域に見守りの目を」と題してご講演をいただき、「地域大家族化」による見守りの目を増やしていくことが大切であるとの示唆がありました。

このように、安心・安全な地域社会の構築のためには、地道に行っている婦人会の活動が今後重要になってくるものと確信しております。県婦人会は、現在様々な課題に直面しております。会員の減少、高齢化や社会の急激な変化、予測できない災害に対する防災意識の高揚を図ることなど、日頃から研修を重ねることで解決の糸口が見つかるのではないかと考えておりますので、積極的な参加をお願いいたします。

本年もどうぞよろしくお願いたします。



## 九州地区地域婦人大会 全地婦連九州ブロック会議

日付：平成27年9月24日(木)・25日(金)  
会場：鹿児島ロイヤルホテル 参加人数：37名

大会テーマ 「絆！連携！明日の地域婦人会を」  
～支え合う地域社会を目指して～

記念講演 「薩摩を生きぬいた女性たち」

維新ふるさと館特別顧問 福田 賢治氏

薩摩は武士の割合が圧倒的に高く薩摩の女性たちは立派な武士を育て上げる事を大事にしていた。島津忠義が5年かけて完成させた教育の基本精神となったといわれる「日新公いろは歌」の教えを基に薩摩の女性たちは子育てをしてきた。名君島津斉彬は10歳の時に、母から「光なき石と見なして心もてみかきあぐれば玉となるらむ」との歌を贈られていたなど時代を大きく変えた人々を育て上げたことが、多くの事例で紹介された。



情報交流会では防火法被を着て炭坑節を披露



## 福岡県交通安全 母の会リーダー研修会

日付：平成27年11月25日(水)  
場所：福岡県警察本部 九州鉄道記念館



警察本部において、現在の交通情勢を学びました。通信指令室や交通管制センター等を視察しました。又飲酒運転撲滅宣言の店で飲酒運転撲滅のための取組を視察したあと、鉄道博物館で日本の交通の歴史を学びました。

## 健康21世紀福岡県大会

日付：平成27年12月6日(日)  
場所：八幡東区イオン



「見て、知って、体験して健康アップ」と題して「健康づくりコーナー」14ブース「ひまわり広場」「つつじ広場」「川崎宗則選手のトークショー」が開催されました。県婦連達は、「健康寿命、認知症、早期支援体制」と題して「福岡新水巻病院の加藤由子さん」をリーダーとして来場者に「物忘れと認知症の違い」を説明。何かを考えながら運動することが脳の活性化につながり、認知機能の維持、向上につながる「デュアルタスク」を来場者に体験してもらいました。認知症の予防には大変役立つと思われるので機会のある毎に仲間同志で、また家庭で行って、少しでも認知症の発症を減らさるのではないのでしょうか？今後の婦人会活動の一つに加えていきたいと思います。

# 歴史に学び、未来に夢を馳せ、 やさしい心で創る安心・安全な地域社会

「よりよい、つむぎあう心温まる社会を」

## 婦人団体研究大会 福岡県で開催 100人が集う

会場：ヒルトン福岡シーホーク



福岡県地域婦人会連絡協議会  
会長 木下 幸子

1952年に誕生した全国地域婦人連絡協議会は、63年目を迎える46年ぶりの福岡県での開催となりました。

一日目は、元消防庁長官、久保信保さんの特別講演で開会、5分科会（環境、福祉、教育、組織歴史）に分かれての討議がなされました。情報交換会では、内閣府・小川県知事をはじめ沢山の来賓の方々にご出席いただきました。特に今回初めて地域の首長にご出席いただき大変喜ばれました。

二日目は精華女子高校吹奏楽部の華やかな演奏でオープニング。分科会の報告、開会行事、臨済宗大徳寺派宗務総長、戸田実山さんの記念講演に続き、大会宣言、決議を採択、盛会の中に終了しました。

### 第一分科会

環境「突発的な豪雨、  
竜巻、落雷、いま地球は…」

講師 日本気象協会  
気象予報士 松井 渉氏



NHKの私達の身近な「気象予報士」の方より近年あまりにも多い異常気象についての話を聞きました。近年、突発的な豪雨に伴う災害が全国各地で多く発生しています。

原因は地球温暖化。日本上空の水蒸気が増加、海の水蒸気も上昇し、海から大気への水蒸気の補給が増え、雨雲が発達し易く、また多発する自然災害に備える為、多くの防災情報が発表されるようになり、地球上のCO<sub>2</sub>の濃度は着実に上昇、それに伴い、地球の温暖化も、進みつつあるとのことで、どこに住んでいても、いつ巻き込まれるかわからない災害に備える為、防災情報を正しく理解し、防災に生かすことの大切さを学びました。



私達一人ひとりが災害に備える努力をするとともに、地球温暖化防止に努めたいと思います。

### 第二分科会

福祉「地域に見守りの目を」  
地域大家族化と健康まちづくり

講師 福岡県すこやか健康事業団  
理事長・会長、医学博士 瓦林 達比古氏



教育「高度情報化社会に対応する  
子供と女性の安全対策」  
講師 福岡県警察本部生活安全部生活安全総務課  
管理官、安全安心まちづくり推進室長 警視 佐矢野 俊氏

福岡県の犯罪状況、平成十四年をピークに減少しているが、子供や女性を対象とする犯罪は、一向

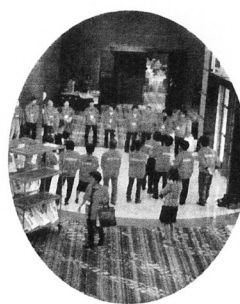


福祉の連携によるまちづくりを進め、人は家族を作り組織を作り社会を作る事によって生存し続けることができるのだから、その為には人を育成しなければならぬ。暖かい地域コミュニティの再成には団塊の世代の力が求められています。核家族化が止められない今、益々年配者や婦人会の力が大いに発揮される時と感じました。

### 第三分科会

犯罪抑止の三要素  
○「領域性」エリアをはる  
・大きな声で挨拶する。  
・近隣との良好な環境づくり  
○「監視性」防犯カメラ  
・共通の見守りした配置  
・公園内の見守りポイントを  
○「抵抗性」防犯ヘルを持つ  
・子供女性を狙った犯罪  
○帰宅中、○アパートのエレベーターでは、女性が降りる一階下で降り、階段で上がり待ち伏せ  
○インターネット犯罪の現状と危険な点  
子供、女性を守るための対策

- ① 規則の強化、性犯罪の厳罰化など
- ② 子供、女性を守るための教育、広報、啓発の推進
- ③ 地域の防犯、ボランティア活動
- ④ 地域環境設計に基づくまちづくり防犯カメラ、セキュリティエリアパトロールの普及
- ⑤ 被害者対策の充実  
精神的、経済的負担の早期軽減



「全国の会員様をお出向え」の様子

### 第四分科会

組織「男女共同参画社会の実現をめざし、種々の課題を抱える婦人会の取組を通して解決の糸口を探る」  
講師 福岡県教育庁 社会教育課  
近藤 真紀氏



テーマカフェという手法で6グループに分かれ「活動で気になること」「思い出深い活動」「活動の強み、弱み」のテーマがつけられ、カードワーク方式で自由に意見を話し、活動の楽しさや等情報共有することができました。婦人会にとりて組織の問題は最重要課題であり、高齢化と環境の変化により組織運営のきびしさをあらためて感じました。現場での苦労と熱き思いそしてボランティア活動の原点に立ち帰る事が最も大事ではないかと心にひびきました。



# 第63回 全国地域婦人団体研究大会 46年ぶりに福岡 全国から1,500名

2015年10月1日(木)・2日(金)



全国地域婦人団体連絡協議会  
会長 柿沼トミ子

## 第五分科会

歴史「長崎街道シェンガーロードの旅」  
—江戸時代の旅、観光、遊学の歴史、文化に学ぶ—

講師 日本経済大学 経済学部

竹川 克幸氏



「竹川講師」は飯塚市幸袋の御出身で、講演は興味深く、分かり易いものでした。

筑前六宿「黒崎、木尾瀬、飯塚、内野、山家、原田の宿をそなえた道程では、長崎と通じて甘いお菓子がシユガロード食文化伝来となりまし。長崎を知らずして江戸を知ることはなれ」参加交代やオランダ人の江戸参府、長崎に向かう遊学生、幕末の志士などの旅人の往来が多く、砂糖や南蛮菓子の伝来と合わせ、蘭学、医学、語学など最新の異文化情報なども行き交う文明、文化のシルクロード

## 特別講演

「東日本大震災と日本の消防」

講師 元消防庁長官

久保 信保氏



特別講演は、元消防庁長官の久保信保さんに「東日本大震災と日本の消防」と題し、初めて全国の消防に指示を出し応援出動させた時の決断と苦悩や、浮き彫りにされた日本の消防の現状と課題などについて講演していただきました。

「全国が手をつないで 今こそ婦人会」

今年には戦後70年で平和の大切さを伝えられた節目の年で、46年ぶりに福岡市で全国大会が開催された事は、とても良かったです。日本は対外的には国際関係などあり、国内では、少子高齢化、人口減少の課題などがあります。だからこそ、女性が学び、共生の時代の創出に総力を発揮することが重要であるとの確信が出来た質の高い大会でした。

「全国地域婦人団体研究大会」に参加して

この度、全国地域婦人団体研究大会に参加させていただきました。婦人会の活動を支援する立場として大変勉強になりました。特別講演では、「東日本大震災と日本の消防」という講演テーマで、日本の消防機関や東日本大震災の被害状況などを講演していただき、災害が起きた際、行政と連携していつ災害が起きても対応できる

## 宣言

私たち、全国地域婦人団体連絡協議会会員は、こ福岡県福岡市に集い、「歴史に学び、未来に夢を馳せ、やさしい心で創る安心・安全な地域社会」をテーマに、第63回全国地域婦人団体研究大会を開催いたしました。

これまで私たちは、女性団体としての伝統と組織力を持ち、地域のあらゆる場面で提言・実践をし、地域社会づくりに貢献してまいりました。

しかし、現在の日本は、対外的には厳しさを増す国際関係、国内あつては少子高齢、人口減少社会の急速な進展と大きな課題に直面しています。このような中で今大会の分科会では環境・福祉・教育・組織・歴史について学び、長い歴史と伝統、組織力を生かし、創意工夫を凝らし、より深い人間関係を作り出す共生の時代の創出に総力を発揮することの重要性を確認しました。

私たちは、「全国が手をつないで、今こそ婦人会」のもとに、本研究大会で協議した成果を全国に発信し、直面する諸問題の解決のため関係機関への提言を行うこと、安心・安全な地域社会づくりに努めることを宣言します。

2015年10月2日

第63回全国地域婦人団体研究大会

## 決議

- 男女共同参画社会の実現に向けて行動します。  
男女共同参画社会基本法が制定され16目を迎え、平成27年12月には第4次男女共同参画基本計画が閣議決定されます。新しい基本計画では、男性中心型労働慣行等の変革と女性の活躍を掲げ、男女共同参画を我が国における最重要課題として位置づけ、国際的な評価を得られる社会を目指しています。また平成27年8月には、女性の職業生活における活躍の推進に関する法律が制定されました。  
私たちは、地域婦人会・女性会とともに、職業生活にとどまらず、地域における女性の活躍推進の重要性を訴え、男女共同参画社会の実現に向けて活動します。
- 環境問題に積極的に取り組みます。  
大規模な自然災害が世界中で起きており、地球規模での環境対策が喫緊の課題となっています。私たちは、地球温暖化防止や自然災害等への備えなど、積極的に情報収集や学びを通して、全国の加盟団体で情報共有をし、グローバルな視野を持ち、ローカルで実践活動をする地域女性団体として、持続可能な社会の構築を目指して活動します。
- 食の安全・消費者問題について学習し、行動します。  
日本の食糧自給率は39%と先進国では最低のレベルです。私たちは地産地消や食育に取り組み、ユネスコ世界無形文化遺産に登録された和食—日本の伝統的な食文化を普及させる活動に取り組めます。  
また、高齢者やインターネット関連の消費者問題は増加の一途をたどっています。私たちは暮らしの中の気づきを大切にして、安心・安全な社会を目指して、消費者問題の防止に向けて積極的に発信し、消費者行政・政策への反映を図る取り組みをします。
- 子どもたちが安心して希望豊かに育つことができる環境づくりを目指します。  
子どもたちを取り巻く環境は少子化の進展や児童虐待、貧困など課題が山積しています。平成27年4月には新しい子ども・子育て支援制度が始まり、次代の社会を担う子ども一人ひとりの育ちを社会全体で応援し、安心して子育てができる環境整備が法律で実践されるようになりました。私たちは、子どもたちの健やかな成長に向け、地域の力を強める取り組みをします。
- 福祉・健康問題について地域活動を推進します。  
4人1人が高齢者となる社会は目前にせまり、社会保険関連費は増加し、給付の効率化や公平な負担など、制度改革が求められています。  
私たちは、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせる社会の実現を求め、生涯を通じた女性の健康と命を守る活動を進めます。
- 平和な社会を守ります。  
世界では今も悲惨な戦争が各地で起き、核兵器廃絶の推進を続ける必要があります。私たちは、日本が二度と戦争をしない、夫や子どもを戦場におくらないとの強い決意を持って、平和運動を続けてまいります。今後も強い気持ちで世界に誇る平和な社会を守っていきます。
- 北方領土返還要求運動を進めます。  
北方領土がロシアに不法占拠されてから70年の年月が経ちました。私たちは諦めることなく四島一括返還を求めて活動し、政府の領土交渉を後押しする運動を進めます。
- 防災・減災に取り組みます。  
東日本大震災からの真の復興のため、国民全体での取り組みの継続強化と、復興を支える地域コミュニティの再生に、女性の視点から声を挙げ、積極的に防災や減災に取り組みます。

2015年10月2日

第63回全国地域婦人団体研究大会

今後も、行政職員として、また、地域の一員として今回の大会で学んだことを日々の業務や生活に生かしながら、婦人会の活動を支援していききたいと思います。

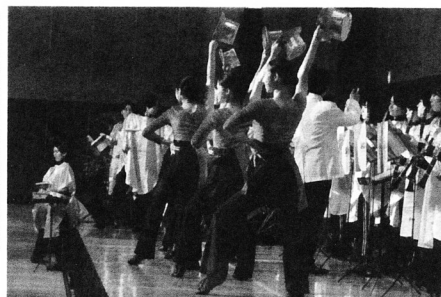
表紙紙 山本作兵衛氏



情報交換会



精華女子高等学校の吹奏楽部の演奏で華やかにオープニング



祝舞花柳紫瑞先生





### 結核予防キャンペーン

結核について知ってください！（空気感染）

#### 結核の予防法

- 赤ちゃんは生後1歳（5ヶ月～8ヶ月）までに必ずBCG接種を受けましょう。
  - 毎年健康診断を受けましょう。
  - 日頃より健康管理に気をつけて規則正しい生活を！
- 葉をきちんと飲めば周りの人に感染させる危険性は少なくなります。

- 咳が2週間以上続く
- 微熱が続く
- 痰が出る（血が混ざる）
- 倦怠感（身体がだるい）
- 胸痛
- 体重減少

このような症状が2週間以上続くときは結核を疑って早めに受診してください。



### 平成27年度 福岡県働く世代をがんから守る事業所フォーラム

日時：平成27年11月11日（水）  
場所：エルガラーホール  
8階大ホール

#### 「職場の誰かがガンになったら」

講師：がんサバイブシップ支援研究部長  
高橋 都氏

働く世代をがんから守る検診推進事業とは全国に比べて低いがん検診率の向上を図るため平成24年度から実施された事業です。働く若い世代の40代50代の検診率を高める為登録事業所に検診推進委員を任命し活動します。

又、県もその活動をサポートしています。婦人会も、早期発見、早期治療によりがん死亡数を減少させるように検診は必ず受けましょう。

### 第47回九州地区 結核予防婦人団体幹部講習会

日時：平成27年10月22日（木）・23日（金）  
場所：ホテルニュー長崎  
参加者：木下会長・池田・野島・山崎

#### 一日目講演

ワクチンで子どもを守ろう  
—BCG接種—  
講師：公益財団法人結核予防会結核研究所 名誉所長  
森 亨さん

乳幼児の日本と米国の罹感率を比較した時、成人をはるかにしのいで減っている。これは長年乳幼児（5～8ヶ月）のBCG接種の予防効果であるということだ。

「結核予防と婦人会のかかわり」すこやかな日々のために」  
講師：公益財団法人結核予防会結核研究所 対策支援部長  
小林 典子さん

結核予防会の設立や複十字シール運動の歴史について勉強しました。又、結核は怖い病気ではない。うつること（感染）と結核になること（発病）は違う。菌がでる前、人にうつす前、治療ができる段階で発見することが大切！

#### 二日目講演

「地域における結核予防婦人会の活動」について

福岡・宮崎・長崎県それぞれが発表しました。福岡県は「複十字シール募金活動について」県婦連と那珂川町の活動について池田が発表しました。

この講演会に参加して思ったことは女性団体として多くの顔を持ち出番がある私たちが子ども達・高齢者等のミニ集会に普及啓発活動を組み入れることは難しいことではないと思いました。

#### 日赤研修会

日赤福岡県支部に於いて今年初めての四地区で、会員を混えての初めての研修会があり、日赤の歴史や日常に役立つ救護の実話講習があり大変好評でした。

#### あすばるフォーラム

11月28日・29日  
第59回全国大会in福岡  
「バトンをつなぐ、未来を拓く」地域共創社会へ！男と女のライフデザイン  
—働く、結婚、子育て—  
基調講演 講師 白河桃子氏

#### 編集後記

会員の皆様や沢山の方々のお陰で全国大会も盛会に終わりました。ご協力有り難うございました。今回は全国大会を中心に編集しました。今後の活動の参考になれば幸いです。

#### 編集委員

池田穂波、廣石福子、吉田春枝、安河内浩子、小田晴美、吉留節子

結核を予防するには？

日ごろから免疫力を高める生活を心がけましょう。

十分分換気 適度な運動 パラソルのとれど 結核 日常生活 +赤ちゃんにはBCG777

結核の常識2013p41

結核菌は日光に弱い  
結核菌は直射日光に当たると、5分で半分ほど、30分後には99.9%が死滅。直射日光でなくても15分ほどで半分に、2時間半ほどで99.9%は死滅。飛沫（核）になった菌でもっと早く死滅する。